

授業概要

小学校教員を目指す人が、小学校の授業について学びます。特に、国語科の教材を中心に基礎的な言語力をつけることができます。

春期は、小学校国語科教材(物語文)、秋期は小学校国語科教材(説明文)を中心に、国語科の授業についての基礎的研究を行い、言葉に関する知識を修得しつつ、文章を読む行為について研究します。

また、発表、討論、レポートを書くことによって、表現力を培い、専門演習へとつなげていくことを目的としています。ぜひ、小学校を目指す方、一緒に学びましょう。

授業計画

第 1 回	ガイダンス1 (前半授業概要)	第 16 回	ガイダンス2 (後半授業概要)
第 2 回	小学校の授業について① 「読む」	第 17 回	小学校教材の研究(説明文)① 一年生
第 3 回	小学校の授業について② 「書く」	第 18 回	小学校教材の研究(説明文)② 二年生
第 4 回	文章を読む行為① 既有知識活用	第 19 回	小学校教材の研究(説明文)③ 三年生
第 5 回	文章を読む行為② スキーマ	第 20 回	小学校教材の研究(説明文)④ 四年生
第 6 回	文章を読む行為③ 文種の違い	第 21 回	小学校教材の研究(説明文)⑤ 五年生
第 7 回	小学校教材の研究(物語文)① 一年生	第 22 回	小学校教材の研究(説明文)⑥ 六年生
第 8 回	小学校教材の研究(物語文)② 二年生	第 23 回	物語作り 理論と実践
第 9 回	小学校教材の研究(物語文)③ 三年生	第 24 回	物語作り作り
第 10 回	小学校教材の研究(物語文)④ 四年生	第 25 回	物語作り発表・批評
第 11 回	小学校教材の研究(物語文)⑤ 五年生	第 26 回	授業研究① 低学年
第 12 回	小学校教材の研究(物語文)⑥ 六年生	第 27 回	授業研究② 中学年
第 13 回	国語科教材についての発表会	第 28 回	授業研究③ 高学年
第 14 回	国語科教材についてのまとめ	第 29 回	授業研究のまとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期まとめ

到達目標

小学校教員を目指す人にとっての言葉と読むことに関する基礎的知識を修得し、調べる、考える、まとめる活動を通し、自己の言葉を振り返り、教師と子どもの言葉についての理解を深める。受講生は、発表、話し合うという活動に積極的に参加すること。また、各回漢字・言葉などの基礎練習等を入れる。

履修上の注意

毎時間、自己の言葉を振り返り活動を行うため、受講者の積極的参加を求める。

また、原則として毎回出席すること。20分以上の遅刻は欠席扱いとなるので注意する。

予習・復習

事前に次の授業の内容や読むべき教材について考えをまとめる。

評価方法

授業内容の討論、発表、レポートにおける積極性や内容など総合的に評価する。

テキスト

必要となる文献等については適宜告知する。

授業概要

教育の主体となる子どもの成長・発達に関連する諸状況について自ら関心のあることについて調べてまとめ、伝えるために必要な分析能力と表現能力を身に付けることを主眼としている。そのために、春期では最近の子どもの行動特徴について取り上げ、また子どもの理解を深めるために保育現場の観察も行う予定である。秋期では、視点をさらに発展させ、子どもの成長する環境、特に家庭と父親・母親を取り上げいろいろな角度から考える。内容に応じて、子どもを理解するための各種心理検査の実施も取り入れて理解を深める。

授業計画

第 1 回	ガイダンス(春期のねらい)	第 16 回	ガイダンス(秋期のねらい)
第 2 回	教育をめぐる状況	第 17 回	最近関心を持ったこと①
第 3 回	最近の子どもの傾向と特徴① 小1プロブレム	第 18 回	最近関心を持ったこと②
第 4 回	最近の子どもの傾向と特徴② 中1ギャップ	第 19 回	子どもの発達についての問題提起
第 5 回	子どもの行動傾向とその原因	第 20 回	家庭での母親の役割
第 6 回	子どもを取り囲む環境の変化① 家庭環境	第 21 回	家庭での父親の役割
第 7 回	子どもを取り囲む環境の変化② 学校環境	第 22 回	夫婦関係と子育て環境
第 8 回	子どもを取り囲む環境の変化③ 地域環境	第 23 回	家庭の影響力
第 9 回	子どもの成長・発達に及ぼす影響とは	第 24 回	望ましい家庭環境を形成するためには
第 10 回	子どもの成長・発達・行動①乳幼児期	第 25 回	子どもの性格形成と家庭環境
第 11 回	子どもの成長・発達・行動②児童期	第 26 回	教育と家庭との連携協力の必要性
第 12 回	子どもの成長・発達・行動③青年期	第 27 回	子どもの理解①家庭環境と子どもの性格 (心理検査の実施)
第 13 回	家庭環境のあり方について考える① 親子関係	第 28 回	子どもの理解②子どもの精神的発達を 知る(心理検査の実施)
第 14 回	家庭環境のあり方について考える② 夫婦関係	第 29 回	子どもの理解③子どもを見る視点
第 15 回	学外授業による保育現場の観察	第 30 回	まとめと話題提供
		第 31 回	試験

到達目標

- ①最近の子どもの行動の特徴について理解する。
- ②子どもを育む環境の重要性について視点を広げ理解する。
- ③教育者として、子どもを取り囲む家庭を中心とする環境の重要性について理解を広げる。
- ④関心のあることを自分で調べ、相手に伝えることを実践する。

履修上の注意

- ①関心のあることを自分で調べ、相手に伝えディスカッションを行うこともあるので、積極的に参加すること。
- ②毎回行われる内容についてわからないことがあるときは、その場で質問するように。
- ③内容に応じてレポートを課すこともある。

予習・復習

シラバスに基づいて次回の内容について触れながら進めるので、事前に下調べをしておくことが望ましい。また、発表する場合には発表内容に幅を持たせるようにグループ内で相談し、資料を十分に活用するように工夫すること。

評価方法

演習への取り組み(積極性)、レポートなどを加味して総合的に評価する。

テキスト

特に指定しないが、進行に応じて参考図書を紹介する。

授業概要

この授業は、現代社会の課題の中から、授業履修者の興味のある問題について、グループ研究を行っていく。具体的には、グループごとのテーマ設定を行い、「調査・研究」をして、グループの参加者が分担しながら報告書を作成していく作業を経験していく。そして、完成後には人前での発表することも経験してもらう。

ここで対象とするテーマは、教育問題に限定することなく、あらゆる関心のあることを取り上げていく。

また、本授業では、研究方法について学んでもらうため、講義者が対応できる歴史学手法と社会学的手法について基礎的な学習の機会も予定している。

なお、実地的経験のため、年間数回の学外調査を予定している（土・日など）。

授業計画

第 1 回	授業を始めるにあたって	第 16 回	夏休み中の調査発表①
第 2 回	現代社会にはどのような問題があるか	第 17 回	夏休み中の調査発表②
第 3 回	関心のあることを探してする	第 18 回	課題についての先行研究を調べる①
第 4 回	研究とは何か	第 19 回	課題についての先行研究を調べる②
第 5 回	社会学について	第 20 回	文献資料の批判につて
第 6 回	研究したいテーマを発表する	第 21 回	グループ作業①
第 7 回	課題について分類化する	第 22 回	グループ作業②
第 8 回	前回の分類化をもとにグループ化する	第 23 回	グループ作業③
第 9 回	グループごとにテーマを考える①	第 24 回	グループ作業④
第 10 回	グループごとにテーマを考える②	第 25 回	報告書の作成①
第 11 回	研究方法を発表する	第 26 回	報告書の作成②
第 12 回	学外調査①	第 27 回	報告書の作成③
第 13 回	学外調査②	第 28 回	グループ発表①
第 14 回	調査のまとめ	第 29 回	グループ発表②
第 15 回	グループ発表	第 30 回	授業のまとめと今後の課題

到達目標

①社会問題の中から学生自身が課題と考えるテーマを導き出せるようになる。

②類似したテーマを持つものが互いに意見交換しながら報告書を作成できるようになる。

履修上の注意

グループ作業が多いので他の参加者に迷惑をかけないようにする。欠席なども他人に作業を押し付けることにもなるので気をつける。

学外調査を行う予定であり、安易に欠席をしないこと。

予習・復習

授業で出された課題は必ず行うこと。

評価方法

日々の課題や報告書の内容、発表などを総合して行う。

テキスト

授業において、学生の関心あるテーマに沿ったものを紹介する。

授業概要

保育。教育の現場に立つものとして音楽に対する柔軟な考え方をめざし、生活の中での音と音楽に親しみ、感性を養うために様々な音環境の事例を学ぶ。

前期は幼児教育での領域「表現」としての音楽活動の事例を、後期は小学校指導要領「音楽」での活動事例を学ぶことで、それぞれの指導目標を理解する。

学外公演の鑑賞も含める。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（前期授業概要）	第 16 回	ガイダンス（後期授業概要）
第 2 回	音への気づき、音の創作	第 17 回	小学校学校での音楽活動
第 3 回	領域表現としての音楽	第 18 回	音楽づくり演習 1
第 4 回	音楽的能力の発達について	第 19 回	音楽づくり演習 2
第 5 回	幼時期の音楽活動 1 歌唱	第 20 回	簡単な作曲と作品作り 1
第 6 回	幼時期の音楽活動 2 歌唱	第 21 回	簡単な作曲と作品作り 2
第 7 回	幼時期の音楽活動 1 器楽合奏	第 22 回	教養としての音楽史 1
第 8 回	幼時期の音楽活動 2 器楽合奏	第 23 回	教養としての音楽史 2
第 9 回	幼時期の音楽活動他領域との関連	第 24 回	音楽史と音楽鑑賞古典
第 10 回	教育楽器。民族楽器の紹介	第 25 回	音楽史と音楽鑑賞ロマン派
第 11 回	楽器作り 1	第 26 回	音楽史と音楽鑑賞近現代
第 12 回	楽器作り 2	第 27 回	歌劇について
第 13 回	創作楽器でのアンサンブル 1	第 28 回	歌舞伎について
第 14 回	創作楽器でのアンサンブル 2	第 29 回	オーケストラの鑑賞会
第 15 回	絵本と音楽（作品発表）	第 30 回	作品発表

到達目標

領域「表現」としての音楽活動、小学校指導要領「音楽」の目標を理解するための活動を演習する。

前期は幼児教育としての視点で後期は小学校音楽の視点での音楽的教養を身に付ける。

感性、表現力豊かな教員を目指して自己研鑽を積む。

履修上の注意

出席を重視する。グループでの制作、活動も行うため欠席による他者への迷惑をかけること。

予習・復習

授業での課題を必修とする

評価方法

受講態度、授業参加度、提出物、グループ発表を総合的に評価する

テキスト

1 年「音楽実技」で使用の『幼児の音楽教育—音楽的表現の指導—』（朝日出版）

プリント配布

授業概要

小学校教員を目指す人を対象に、授業を行うための基礎的な事項を学ぶ。

テキストを読み進める（各自は予習として各章ごとに通読をし、そこにある課題を必ずやってくるという反転授業の形式で行う）と共に、次時にはそれに関連する具体的な課題を取り上げ、全員で議論をしながら演習を進める。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	目標・指導・評価—子どもは学んだ？
第 2 回	よい授業とは	第 17 回	評価の方法—学びをどう捉える？
第 3 回	「木曾呂」を学ぼう	第 18 回	教師は何をしている？
第 4 回	学んだ事を仲間に伝えよう	第 19 回	教師の振る舞いのねらいを探ろう
第 5 回	分かりやすく伝えるには	第 20 回	学習意欲を高める ARCS モデル
第 6 回	学ぶとは知ることか	第 21 回	学習意欲を高める動機付け
第 7 回	学ぶとはできるようになることか	第 22 回	協同的な学びとは
第 8 回	一人で学べるのか—その方策は	第 23 回	協働的な学びをデザインする
第 9 回	教師の仕事とは	第 24 回	社会の情報化
第 10 回	インストラクショナルデザインとは	第 25 回	情報社会に適應するには
第 11 回	授業の構想—学習目標を明確にする	第 26 回	授業を分析するとは
第 12 回	教材研究の方法—何を教える？	第 27 回	授業を分析する
第 13 回	教材研究の方法—どう教える？	第 28 回	学び続ける教師の条件
第 14 回	学習指導案—どう教える？	第 29 回	学び続ける教師を目指す
第 15 回	学習指導案を書いてみよう	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

教師の仕事について、教師の立場から重要点を、具体的な事例をもとに説明することができる。
 子どもの学びについて、配慮すべき事柄を、いくつかの事例をあげて、説明することができる。
 演習を通して、アクティブ・ラーニングのよさを体得し、主体的に学ぶ態度を形成する。

履修上の注意

次時まで、必ずテキストを読み、章末にある課題をやってくることが求められる。

原則、遅刻は認めない。

他者の考え方をよく聴き、それにもとづき自分自身の考えを持つ（変容する）ようにし、それを他者に伝達する努力が求められる。

予習復習

テキストの指定された箇所（章）を、次時まで読み、そこにある課題を行ってくる。

この事が済んでいる（できている）という前提で、演習は行われる。

評価方法

予習（反転授業）の有無やその成果、演習での討議への参加度、レポート等を総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：『授業設計マニュアル Ver.2—教師のためのインストラクショナルデザイン—』
- ・著者名：稲垣 忠・鈴木 克明
- ・出版社名：北大路書房

授業概要

現代社会の福祉的課題についてグループワークで議論を深め、グループごとにパワーポイントにまとめて発表する。そこからまた新たな課題をみつけて、探求していく。

授業計画

第 1 回	自己紹介と自己開示	第 16 回	主張と課題の関係について
第 2 回	課題探求①	第 17 回	課題探求①
第 3 回	課題探求②	第 18 回	課題探求②
第 4 回	調査①	第 19 回	調査①
第 5 回	調査②	第 20 回	調査②
第 6 回	調査③	第 21 回	調査③
第 7 回	発表準備①	第 22 回	発表準備①
第 8 回	発表準備②	第 23 回	発表準備②
第 9 回	発表準備③	第 24 回	発表準備③
第 10 回	発表	第 25 回	発表
第 11 回	発表	第 26 回	発表
第 12 回	発表	第 27 回	発表
第 13 回	新たな課題探求①	第 28 回	新たな課題探求①
第 14 回	新たな課題探求②	第 29 回	新たな課題探求②
第 15 回	今期のまとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

現状のすべてを肯定するのではなく、自ら課題をみつける力を養う。

履修上の注意

現在の福祉をよりよくしようという意欲をもって臨むこと。学外にて演習の予定あり。

予習・復習

発表する内容をまとめてくること。

評価方法

発表の内容と授業への貢献度により評価する。

テキスト

コピーを配布する。

授業概要

専門演習、卒業演習へ向けたアカデミック・スキルの向上と、保育・幼児教育分野における知識・興味の深化を目指す。基礎的な社会調査の技法を取得することによって、科学的な根拠に基づいた ECCE に向けた将来の専門性向上を意識することの一助とする。具体的には1. 自由なテーマに基づいた社会調査とプレゼンテーションに関するグループワーク、2. 子ども・子育て支援、ESD 等に関連した時事問題に関するディベートを予定している。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	子ども・子育て支援の今後の展望(講義)
第 2 回	自己紹介(将来の展望と学術的興味)	第 17 回	時事問題の収拾
第 3 回	PCを用いたデータベース利用の方法	第 18 回	時事問題の概要と考察①(発表)
第 4 回	個人による調査テーマの設定	第 19 回	時事問題の概要と考察②(発表)
第 5 回	グループ分け	第 20 回	ディベートテーマ設定
第 6 回	グループ間での調査テーマ設定	第 21 回	グループ分け
第 7 回	社会調査法概論①(量的調査)	第 22 回	ディベートの概要と動画視聴(講義)
第 8 回	社会調査法概論②(質的調査)	第 23 回	ディベート準備①
第 9 回	文献レビューとグループワーク①	第 24 回	ディベート準備②
第 10 回	文献レビューとグループワーク②	第 25 回	ディベート①
第 11 回	文献レビューとグループワーク③	第 26 回	ディベート②
第 12 回	文献レビューとグループワーク④	第 27 回	ディベート③
第 13 回	調査結果発表①	第 28 回	事後レポート作成①
第 14 回	調査結果発表②	第 29 回	事後レポート作成②
第 15 回	春期総括	第 30 回	秋期総括

到達目標

実践の積み重ねからの帰納的な知見を得るだけでなく、科学的な根拠に基づいた演繹的なアプローチから子ども・子育て支援の問題を捉える力を養う。特に文献の読み方、データベース利用の方法、報告書のまとめ方等の具体的なメソッドロジーを学ぶことで、主体的な学びに取り組むための準備とする。

履修上の注意

- ・ 討論・演習において主体的に取り組める学生の履修を望む。
- ・ 原則として毎回出席すること。遅刻・欠席の場合は都度対処するので必ず連絡すること。
- ・ 授業内における一人ひとりの発言は貴重な情報である。どの様な内容であっても互いに否定的に捉えないことをルールとする。
- ・ 文献レビューの準備等、授業外での課題にも積極的に取り組むこと。

予習・復習

授業時間外で取り組む課題を複数回予定している。

評価方法

出席、講義内の討論における積極性、文献レビュー等の課題から総合的に判断する。

テキスト

特に定めない。適宜資料を配布する。

授業概要

この演習では、教育を批判的に（≠ネガティブに）とらえるための視座を形成するとともに、実際の教育政策過程をたどることとする。

春期は、現代の教育問題を扱った文献を講読する。

秋期は、そのような教育問題を克服する（はずの）手段としての教育政策のあり方を考えるべく、各グループで任意に選んだ答申を通して、現在の教育政策の動向を理解していくことにする。教員採用試験の「教育時事」分野では、直近数年の中央教育審議会答申は頻出なので、その対策にもなるだろう。

授業計画

第 1 回	ゼミ（春期）の進め方	第 16 回	ゼミ（秋期）の進め方
第 2 回	教育問題と教育学	第 17 回	教育政策の作られ方
第 3 回	教育問題の語られ方	第 18 回	教育関係法令の仕組み
第 4 回	共通文献講読（1）-1	第 19 回	教育関係審議会の種類と内容
第 5 回	共通文献講読（1）-2	第 20 回	2000 年以降の教育関係審議会
第 6 回	共通文献講読（1）-3	第 21 回	答申の検討（担当者による示範）
第 7 回	共通文献講読（1）-4	第 22 回	答申の検討（1）-1
第 8 回	共通文献講読（1）-5	第 23 回	答申の検討（1）-2
第 9 回	共通文献講読（1）-6	第 24 回	答申の検討（2）-1
第 10 回	共通文献講読（2）-1	第 25 回	答申の検討（2）-2
第 11 回	共通文献講読（2）-2	第 26 回	答申の検討（3）-1
第 12 回	共通文献講読（2）-3	第 27 回	答申の検討（3）-2
第 13 回	共通文献講読（2）-4	第 28 回	答申の検討（4）-1
第 14 回	共通文献講読（2）-5	第 29 回	答申の検討（4）-2
第 15 回	共通文献講読（2）-6	第 30 回	まとめと総括

到達目標

- ・教育という事象を客観的、批判的にとらえることができる資質を養う。
- ・専門的な内容を含むものを読み解く能力を養う。「素直な心で読む」（小学校の読書感想文にありがちな「読み」）でも、「虚心坦懐に、論理的に読む」（中学校や高等学校の現代文に典型的な「読み」）でもなく、「背景知識を駆使して、行間まで理解する」ことを目指す。

履修上の注意

文献講読にせよ、答申の検討にせよ、グループ単位で発表をしてもらうので、1 年を通してグループワークが必要となる。

メンバーに迷惑をかけるようなこと（発表準備に非協力的、発表時の無断欠席など）は、厳に慎むこと。

予習・復習

年に複数回の発表が求められるが、その準備はすべて授業時間外での作業となる。

評価方法

グループ発表の成果（発表資料・発表内容）（80%）・質疑応答や討論への参加度（20%）

テキスト

講読する共通文献は現在検討中だが、1000 円以内の新書・文庫から担当者が選定する（都合 2 冊の本が必要になる）。詳細は初回授業時に示す。

発表に使う答申は、文部科学省のウェブページより入手可能である。入手方法は授業時に説明する。